

# 一龍院だより

日蓮大聖人様のお言葉の、ご紹介やお寺の行事や日常などを不定期で記事にして発行いたします。ご自由にお持ちになつてください。  
(第八号彼岸特別号)

日蓮大聖人様の聖語

## 国土乱れん時は、

### 先ず鬼神乱る

『立正安國論』／文応元年（一二六〇）三十九歳

＝鬼神を善神に＝

古典『徒然草』には、「女が鬼になつて京の町に來た」という噂がたち、鬼探しが流行つたが誰も鬼を見つけられない。その後、病気になる人が増え、鬼の噂はその前兆だつたのかも」といつた記述があります。

昔から鬼は人に禍をもたらす目に見えない存在として理解されてきたようです。では鬼はどこにいるのでしょうか。それはそれぞれの人の心の中です。そして鬼は、善神になつたり、また鬼神に戻つたりと、折々に変化していきます。

世の中では良いこと、悪いことが次々起ります。

〈発行所〉  
**修弘山一龍院**  
調布市入間町  
1-38-1  
TEL03-  
3308-4440



現実の世界と目に見えない心の世界が影響し合つていてるからです。人がお互いに敬い合い、優しい気持ちになることで、互いの心に棲む鬼神が善神に変わつてきます。誰にでもできる小さな思いやりが、安穏な世界の実現につながつていくのです。

◎日蓮聖人ご遺文『立正安國論』

国の乱れは人心の乱れが原因とし、一刻も早く心を正し安穏な世の中を作つていかなければならないという提案です。聖人は世の安穏を願つて、鎌倉幕府の実力者に提出しました。

文応元年（一二六〇）三十九歳

（日蓮宗今月の法話より）

## 春の彼岸会法要の季節です

彼岸とは「彼の岸」つまり、仏さまの世界（浄土）を意味し、私たちが暮らしている苦しみや迷いが多い世界（此岸、しがん）から仏さまの世界に渡ることを「到（とう）彼岸（ひがん）」と呼びます。

昼夜の時間が同じになる春と秋のお中日を中心として前後三日の合わせた七日間が「お彼岸」の期間とされ、昔から人々は先祖の墓参りをしたり、お寺で経をあげ、先祖の供養をしてきました。

### お塔婆供養はお墓にお持ちにならなくとも大丈夫です

上の写真のように本堂にお供えいたしますので、お墓までお持ちにならなくとも大丈夫です。

お釈迦様のお墓として古代インド語で「塔」を意味するストゥーパが建てられました。お釈迦様が亡くなられた時、この塔を建てて供養したのが「お塔婆」の始まりといわれています。ご自身のご先祖様の供養のために志す事が多いようですが、友人やお世話になつた方、また有縁の方にたむけて、善行を積まれるとよいでしょう。

電話 ○三一三三〇八一四四四〇

**修弘山 一龍院**